

2022年3月期第3四半期決算電話会議説明および議事録

参考資料:2022年3月期第3四半期決算説明資料

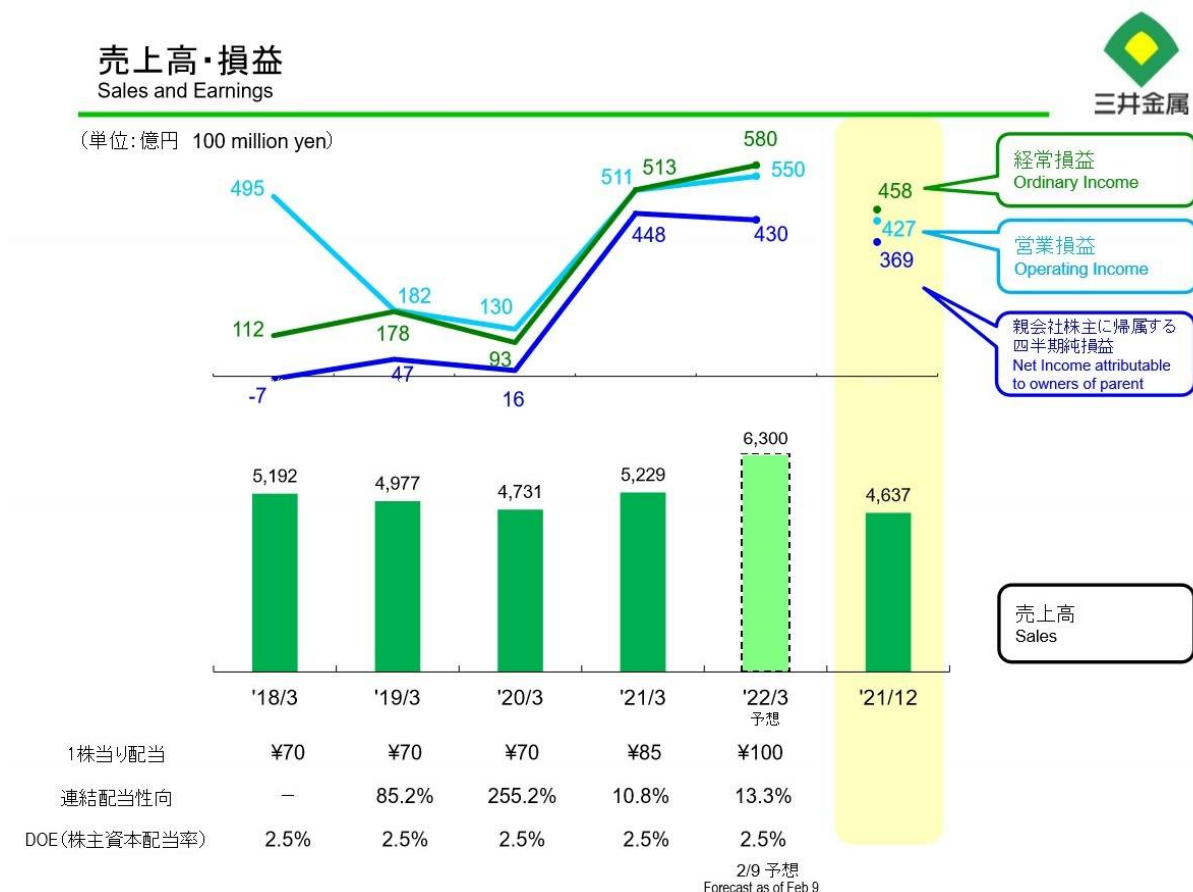
[https://www.mitsui-](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=vaRGSLRNQWs%3d&tabid=100&mid=1060&TabModule819=0)

[kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=vaRGSLRNQWs%3d&tabid=100&mid=1060&TabModule819=0](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=vaRGSLRNQWs%3d&tabid=100&mid=1060&TabModule819=0)

(補足) PKG : パッケージ基板

HDI : マザーボード (High Density Interconnect)

■ご説明



決算説明資料1ページ「売上高・損益」をご覧ください。

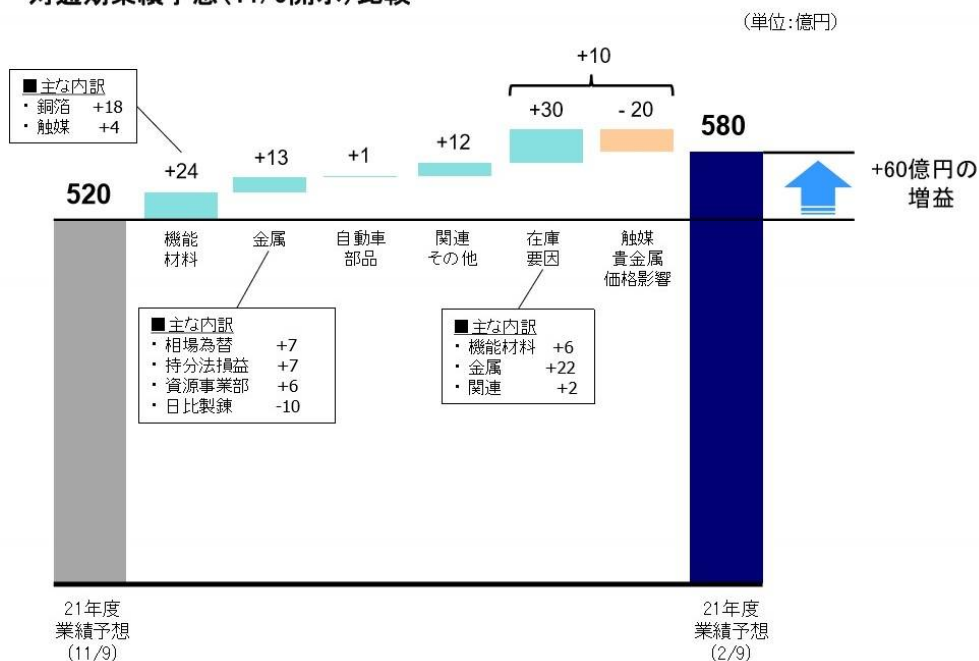
・2022年3月期第3四半期累計での売上高は4,637億円、営業利益は427億円、経常利益は458億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は369億円となりました。

・2022年3月期の連結業績予想は、売上高6,300億円、営業利益550億円、経常利益580億円、当期純利益430億円を見込んでいます。

・なお、1～3月の諸元については、LME亜鉛価格3,550\$/t、LME鉛価格2,300\$/t、LME銅価格420¢/lb、為替は114円/\$を前提としています。

・配当につきましては、1株当たり100円とし、これまで公表している配当予想から修正していません。

21年度経常利益は 580億円と前回業績予想比で+60億円の増益を見込む
対通期業績予想(11/9開示)比較



続きまして、通期の業績予想について、11月9日に公表いたしました業績予想との対比でご説明いたします。決算説明資料2ページ「21年度経常利益見込」をご覧ください。

・11月9日公表の経常利益見込みは520億円としておりましたが、これを60億円上方修正し、580億円と見込んでいます。内訳を見ると、まずグラフの右から3つ目の在庫要因で30億円の好転、その右の触媒事業における貴金属価格下落の影響でマイナスの20億円となっています。

・これらの要因を除いてセグメント別に見ると、機能材料セグメントにおいて24億円の上方修正となりました。特にHDI向けMicroThin™の販売数量が従来予想より上回っていることなどにより銅箔事業で18億円の上方修正、また触媒事業で二輪向けの増販および構成差で4億円の上方修正が主な要因です。

・金属セグメントにおいては相場の上昇を主因として13億円の上方修正となりました。

・自動車部品セグメントにおいてはほぼ従来予想並みを見込んでいます。

・関連・その他においては、為替の円安影響等により12億円の好転となっています。

損益計算書 Statements of income



(単位: 億円 100 million yen)

	実績 Results			通期見通し Forecast				
	'21/Q1-3	'20/Q1-3	増減 Difference	2021 今回予想 Forecast	2020	増減 Difference	2021 11/9 予想 Forecast as of Nov 9	増減 Difference
売上高 Net Sales	4,637	3,618	1,019 28.1%	6,300	5,229	1,071 20.5%	6,250	50 0.8%
売上原価 Cost of sales	3,757	2,932	825 28.2%	-	-	-	-	-
売上総利益 Gross Profit	880	687	193 28.1%	-	-	-	-	-
販売費・管理費 SG&A expenses	453	384	69 18.1%	-	-	-	-	-
営業利益 Operating Income	427	303	124 40.9%	550	511	39 7.6%	510	40 7.8%
営業外収支 Non-operating income/expenses-net	31	-28	58	30	1	29	10	20
経常利益 Ordinary Income	458	275	182 66.2%	580	513	67 13.1%	520	60 11.5%
特別損益 Extraordinary profit/losses-net	0	-88	88	-10	34	-45	2	-12
税引前利益 Net Income before income taxes	458	187	271 144.5%	570	547	23 4.1%	522	48 9.1%
税金費用・非支配株主帰属損益 Income taxes & minority interests	89	47	43	140	99	40	132	8
親会社株主に帰属する 当期純利益 Net income attributable to owners of parent	369	141	228 162.0%	430	448	-18 -4.0%	390	40 10.3%

4

第3四半期累計期間の実績と通期の見通し等についてご説明いたします。決算説明資料4ページの「損益計算書」をご覧ください。

・第3四半期累計期間は、前年同期に対し、貴金属を含む金属価格が上昇したことや、MicroThin™の販売量が増加したこと等により、売上高は1,019億円(+28.1%)増加の4,637億円となりました。

・営業利益は、今期パラジウム・ロジウム価格が下落基調にあったことにより触媒事業で大きな減益となったものの、MicroThin™の好調な販売状況や、非鉄金属価格が上昇したこと等の影響により、前年同期比124億円(+40.9%)の好転で427億円、経常利益は182億円(+66.2%)の好転で458億円、当期純利益は前年度にカセロネス鉱山の権益売却損失を計上していたこともあり、228億円好転の369億円となりました。

・通期見通しについては、このあと、セグメント毎にご説明いたします。

セグメントの業績(1) 機能材料

Performance by Segment – Engineered Materials



(単位: 億円 100 million yen)

	2021 Q1-3	2020 Q1-3	増減 Difference	FY2021 (今回予想) Forecast	FY2020	増減 Difference	FY2021 (11/9予想) Forecast as of Nov 9th	増減 Difference
■売上高 Sales	1,914	1,395	518	2,530	2,078	452	2,480	50
■営業利益 Operating income	194	167	27	255	265	-10	250	5
■経常利益 Ordinary income	192	154	39	250	265	-15	240	10
※実力損益 Real Income	222	138	85	279	215	64	255	24

※実力損益：経常利益から在庫要因と触媒貴金属価格影響を除いたもの

(機能材料製品)	(主な用途)
機能性粉体 (電池材料)	 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド車向けニッケル水素電池 ・電気自動車向けリチウムイオン電池
機能性粉体 (機能粉)	 <ul style="list-style-type: none"> ・各種電子部品 ・ガラス研磨材
触媒	 <ul style="list-style-type: none"> ・二輪車・四輪車排ガス浄化用触媒
銅箔	 <ul style="list-style-type: none"> ・高密度パッケージ材料 ・プリント配線基板
薄膜材料	 <ul style="list-style-type: none"> ・フラットパネルディスプレイ

経常利益の増減説明

['20/Q1-3 → '21/Q1-3 + 39]

銅箔 +57 (MicroThin™増販他)
触媒 -54 (貴金属価格差他)
薄膜材料 +24 (在庫要因、販売単価差他)

[' FY2020 → 'FY2021予想 - 15]

触媒 -97 (貴金属価格差他)
銅箔 +53 (MicroThin™増販他)
薄膜材料 +20 (在庫要因、販売単価差他)



続きまして、セグメント毎の状況についてご説明いたします。

まずは機能材料について決算説明資料13ページの「セグメントの業績(1)機能材料」をご覧ください。

・第3四半期累計期間の経常利益は前年同期比で39億円増益の192億円となりました。要因としましては、MicroThin™の販売が好調であったこと等により銅箔事業が57億円の増益となったこと、また薄膜材料事業でインジウム価格上昇による在庫要因による好転が15億円あったことや販売単価が好転したこと等により24億円増益となったこと等大きなプラスもありましたが、触媒事業において、前期上昇基調で推移した貴金属価格が今期は下落基調で推移したことにより、前期13億円のプラスで影響していたQP差による影響が、今期は48億円のマイナス影響と、その差61億円の対前期マイナス要因となっている影響が大きく、54億円の減益となり、銅箔の増益を相殺する形となりました。

・経常利益の見通しについては11月9日の公表値に比べ10億円好転の250億円で見込んでおります。これは特にHDI向けMicroThin™の販売が好調なことが主因です。

セグメントの業績(2) 金属

Performance by Segment – Metals



(単位: 億円 100 million yen)

	2021 Q1-3	2020 Q1-3	増減 Difference	FY2021 (今回予想) Forecast	FY2020	増減 Difference	FY2021 (11/9予想) Forecast as of Nov.9th	増減 Difference
■売上高 Sales	1,678	1,359	319	2,330	1,936	394	2,310	20
■営業利益 Operating income	231	147	84	290	237	53	265	25
■経常利益 Ordinary income	244	137	108	305	228	77	270	35
※実力損益 Real Income	166	90	77	215	157	58	202	13

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

金属価格・為替の推移 Metal Prices and FOREX

	'20/Q1	Q2	Q3	Q4	'21/Q1	Q2	Q3	Q4見込
亜鉛 Zn	\$/t	1,959	2,340	2,631	2,748	2,916	2,991	3,365
亜鉛(実効) Zn (Actual)	\$/t	2,113	2,404	2,624	2,705	2,845	2,893	3,147
鉛 Pb	\$/t	1,670	1,876	1,903	2,020	2,127	2,341	2,331
銅 Cu	¢/lb	242	296	325	385	440	425	440
為替 US\$	yen/\$	107.6	106.2	104.5	105.9	109.5	110.1	113.7
為替(実効) US\$ (Actual)	yen/\$	107.8	106.7	105.0	106.2	109.6	110.2	113.0

経常利益増減分析

	20/Q1~3 →21/Q1~3	FY2020 →FY2021予想
相場・為替	58	77
T/C条件(亜鉛)	-30	-40
たな卸資産在庫要因	31	19
持分法損益	45	47
コース	-5	-17
受取配当金	-19	-19
その他 ※	28	10
合計	108	77

2021年度年間損益感応度(経常損益)
Sensitivity to ordinary income (for FY2021)

		(億円 100 million yen) フルオープン	予約含む
亜鉛(LME) Zn	±100\$/t	11.9	7.7
鉛(LME) Pb	±100\$/t	2.8	2.8
為替 US\$(yen/\$)	±1yen/\$	5.0	3.9

※その他の内訳

【'20Q1-3→'21Q1-3 +28】
・八戸製錬大定修 +14、資源事業 +24、亜鉛操業差 +11
エネルギーコスト - 11、PGMリサイクル - 14、その他 +4
【'FY2020→'FY2021予想 +10】
・八戸製錬大定修 +14、資源事業 +28、亜鉛操業差 +13
エネルギーコスト - 18、PGMリサイクル - 19、その他 - 8

14

続きまして金属事業セグメントです。決算説明資料14ページをご覧ください。

・第3四半期累計期間の経常利益は前年同期比で108億円増益の244億円となりました。このうち非鉄金属相場および為替の好転による影響が58億円あり、うち46億円が相場の影響です。さらに持分法損益でも45億円好転していますが、こちらは前年度にカセロネスのマイナスが31億円影響していたものがなくなったのが大きな要因です。

・経常利益の見通しについては11月9日の公表値に比べ35億円好転の305億円で見込んでおります。内訳は決算説明資料2ページに記載の通りですが、在庫要因を含む相場上昇による増益が主要因です。

セグメントの業績(3) 自動車部品

Performance by Segment – Automotive Parts & Components



(単位: 億円 100 million yen)

	2021 Q1-3	2020 Q1-3	増減 Difference	FY2021 (今回予想) Forecast	FY2020	増減 Difference	FY'2021 (11/9予想) Forecast as of Nov.9th	増減 Difference
■売上高 Sales	582	588	-6	810	811	-1	790	20
■営業利益 Operating income	-1	9	-10	4	14	-10	3	1
■経常利益 Ordinary income	7	13	-6	10	19	-9	9	1

[三井金属アクト]	(主な用途)
自動車部品 	・自動車用ドアロック

経常利益増減分析	20/Q1-3 →'21/Q1-3	FY2020 →FY2021予想
増減販	-	-
コスト削減	8	17
その他※	-14	-26
合計	-6	-9

※その他の内訳

['20Q1-3→'21Q1-3 -14]

・鋼材・樹脂価格上昇 -12、為替差 +7、
一時帰休助成金他 -6、輸送費上昇 -7

['FY2020→'FY2021予想 -26]

・鋼材・樹脂価格上昇 -16、為替差 +7、
一時帰休助成金他 -6、輸送費上昇 -5

15

続きまして自動車部品セグメントです。決算説明資料15ページをご覧ください。

・第3四半期累計期間の経常利益は前年同期比で6億円減益の7億円となりました。コスト削減は進んでいるものの、鋼材・樹脂価格および輸送費が上昇している影響が大きく、前年度比減益となりました。

・経常利益の見通しについては、販売量の見通しは改善しているものの、輸送費等の上昇もあり、ほぼ11月9日の公表値に近い10億円を見込んでいます。

・本日、当社グループのパーパスおよび全社ビジョン、また組織改編についてもリリースいたしました。これら本日リリースいたしました内容を含む、次期中期経営計画、22中計を現在策定中であり、詳細な内容につきましては、5月に予定しております、22中計の公表時にご説明いたします。

■質疑応答

【機能材料セグメント】

Q. 機能材料セグメントのQ2からQ3で利益が大きく変動している理由を解説下さい。

A. Q3で触媒貴金属価格影響がマイナス88億円あり、その影響が大きい。その内のマイナス42億円は低価法による評価損。触媒で初めて低価法を適用したが、これにより高簿価の在庫による影響は出し切ったと考えている。

Q. MicroThin™のHDI向けが好調とあるが、北米系スマホメーカーが売れていることもあり、好調なのか。PKG向けとHDI向けの両方について、お客様の拡大の有無を含めて、今MicroThin™で起こっていることについて教えて下さい。

- A. HDI向けについて、通常ではQ4で数量が落ち込むが、今年度は北米系スマホメーカーの販売が好調であること、毎年のモデルに加えて追加モデルの作り込みがあると想定されることから、Q4もQ3と同水準の販売数量を見込んでいる。PKG向けについては、前回11月の想定通り高水準の需要が続いている。特にQ3、Q4にかけて、サーバーのメモリ用などの非スマホのメモリ向けが増えている。新たなお客様の動きについては、HDI向けで中華系スマホメーカー2社が採用を検討しているが、まだ採用が決定した話はない。
- Q. 中華系スマホメーカー2社が検討とのことだが、11月の説明では1社だった。増えたとの理解でよいか。
- A. その通り、1社増えた。採用決定の話はまだないが、話としては前に進んでいると捉えている。
- Q. 中華系スマホメーカー2社で採用された場合、それなりの販売量が期待できるのかどうか、教えてください。
- A. これまで北米系スマホメーカー以外で細々と採用されてきた状況と同じで、採用される可能性があるのは、一部のハイエンド機種に限られると思われる。そのため2社のどちらが採用されてもMicroThin™のHDI向けが大幅に伸びるとは、今のところ想定していない。
- Q. 電解銅箔について、FPC向け、基地局向けや通信インフラ向けがどのような状況になっているのか教えてください。
- A. FPC向けはQ3、Q4とスマホ向けが低迷しているため、Q2とほぼ同じような水準が続いている。通信インフラ向けについては、比較的堅調だったサーバー向けが、Q4に入り在庫調整となる。サーバー向けの電解銅箔の減少が、Q3からQ4で電解銅箔の数量が減っている主な要因。
- Q. 銅箔の利益を上方修正されているが、MicroThin™は上方修正して、それ以外の電解銅箔は下方修正しているイメージですか。
- A. その通り。
- Q. MicroThin™のPKG向けについて、5Gスマホで使用原単位が上がっているのではないかとの説明を今年度からされているが、御社の分析で何かアップデートがあれば教えてください。
- A. 5Gで新たに搭載される部材で伸びることも当然あるが、それ以外の部品の高性能化により増えている影響が大きいことが分かってきている。そのため、5G化に加えてスマホの高性能化によりPKG向けのMicroThin™が増えている。今後もミリ波対応機種の増加である程度増えていく、5G化以外の部品の高性能化でもまだまだMicroThin™が使われていくと見ているが、今のところ5G化で何%増加、高性能化で何%増加とお答えできる状況にない。

主要製品の動向 Trends of products



	2019					2020					2021					2021予想(11/9)					
	Q1	Q2	Q3	Q4	年間	Q1	Q2	Q3	Q4	年間	Q1	Q2	Q3	Q4 見込	下期 見込	通期見込 (2/9)	下期	通期			
機能材料	MH合金 MH alloy	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	103	106	110	105	76	102	104	111	98	68	94	120	123	121	101	125	103
	二輪触媒 Catalysts for 2W	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	103	104	109	104	49	128	128	121	107	94	110	114	122	118	110	115	108
	インド向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(102)	(94)	(123)	(105)	(40)	(176)	(164)	(143)	(131)	(90)	(130)	(117)	(129)	(123)	(117)	(137)	(124)
	インドネシア向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(110)	(119)	(116)	(111)	(40)	(71)	(65)	(98)	(68)	(90)	(94)	(106)	(128)	(117)	(104)	(92)	(92)
	その他地域向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(102)	(112)	(88)	(101)	(63)	(88)	(105)	(101)	(89)	(100)	(90)	(114)	(110)	(112)	(104)	(95)	(95)
	四輪触媒 Catalysts for 4W	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	104	98	102	101	61	123	130	117	108	112	111	119	136	128	120	142	127
	銅箔 Copper foil	販売量 Volume of sales	千円	2,320	2,520	2,530	2,250	2,400	1,860	1,960	1,780	2,460	2,010	2,260	2,180	2,160	1,960	2,060	2,140	2,140	2,180
	MicroThin™ (a) + (b)	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	139	121	116	119	142	153	149	135	145	188	196	171	173	172	182	163	177
	HDI向け MicroThin™ (a)	販売量 Volume of sales	指数 Index	(24)	(34)	(18)	(16)	(23)	(20)	(49)	(40)	(13)	(31)	(35)	(59)	(33)	(31)	(32)	(39)	(24)	(36)
	PKG向け MicroThin™ (b)	販売量 Volume of sales	指数 Index	(76)	(105)	(100)	(100)	(96)	(122)	(104)	(109)	(122)	(114)	(153)	(137)	(138)	(142)	(140)	(143)	(139)	(141)
ITO	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	111	112	109	108	103	91	107	95	99	99	95	93	87	90	93	90	93	
金属	亜鉛 Zinc	生産量 Volume of production	千t	56	56	56	52	219	43	56	58	58	215	56	51	52	60	112	219	113	220
自動車部品	サイドドア ラッチ Side door Latches	販売量 Volume of sales	指数 Index	100	99	97	82	95	59	96	112	102	93	94	83	100	111	106	97	107	98
	日本向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(105)	(98)	(118)	(106)	(65)	(108)	(124)	(112)	(102)	(94)	(80)	(99)	(122)	(110)	(99)	(115)	(101)
	中国向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(101)	(109)	(43)	(89)	(102)	(109)	(124)	(102)	(109)	(104)	(101)	(125)	(125)	(125)	(114)	(125)	(114)
	その他アジア向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(99)	(93)	(86)	(95)	(25)	(70)	(93)	(95)	(70)	(83)	(81)	(99)	(100)	(100)	(91)	(92)	(87)
	欧米向け	販売量 Volume of sales	指数 Index	(100)	(92)	(89)	(86)	(92)	(31)	(87)	(100)	(97)	(79)	(90)	(70)	(80)	(91)	(86)	(83)	(92)	(86)

指数：2019年Q1を100として表示

11

- Q. 決算説明資料P11の二輪触媒の動向について、全体の年間累計では前年比プラス4~5%の水準だが、インドなどは前年と比べるとまだ低水準な状況にある。インドやインドネシアでのCOVID-19の影響について確認させて下さい。
- A. インドはロックダウンのあったQ1と比べると、需要は回復しているが、想定ほど回復していない。COVID-19の影響よりも、インフレ等が進みバイクの価格上昇などの影響で、販売量が想定より伸びていない。COVID-19の影響で景気悪化の側面はあるかと思うが、操業停止やサプライチェーンの分断などの直接的な影響はない。インドネシアは逆に想定よりも回復が進んでおり、COVID-19の影響はあまり感じられない。

【金属セグメント】

- Q. 足元のヘッジ状況を教えてください。
- A. 亜鉛は2022年度：約2,980\$/tで35%程度、2023年度：2,900\$/tで7%程度、2024年度：2,800\$/tで6%程度それぞれ予約している。為替は2022年度：110.4円/\$で25%程度、2023年度：約110.5円/\$で15%程度、2024年度：約110円/\$で5%程度それぞれ予約している。
- Q. コークスや原油などのエネルギーコスト上昇の影響が前回比でどのようになっているのか。また、来期にかけてコストアップ要因として、タイムラグで効いてくるかについてもコメントをお願いします。
- A. エネルギーコストについて、コークスとその他電力価格やLNG等を加味すると、今回は前回比でほとんど影響はないが、21年度下期だけで対前年で30億円程度のコストアップになっており、今のエネルギー価格で推移した場合、来年度の業績に30億円程度のコストアップの影響があると考えられる。

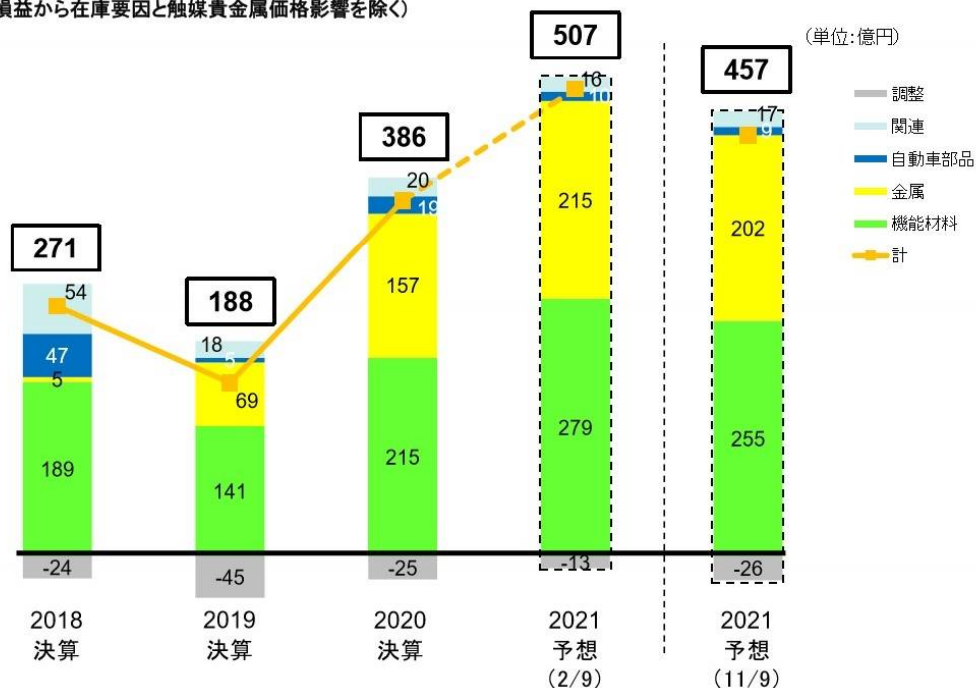
損益推移

Financial Performance



損益推移

(経常損益から在庫要因と触媒貴金属価格影響を除く)



19

- Q. 決算説明資料P19の損益推移は、決算説明資料P12の在庫要因121億円と決算説明資料P18の一過性要因マイナス49億円を合わせたものを考慮したとの理解でよいか。
- A. 決算説明資料P19のグラフは経常利益から決算説明資料P12在庫要因と触媒貴金属価格影響の合計を除いた損益。
- Q. 今回の組織改編でモビリティ事業本部が設立され、そこに触媒事業が移管されるが、今回の組織改編にあたって、どのような全社としてのシナジーや効果を見込んでいるのか、今の話せる範囲で教えてください。併せて、全固体電池はモビリティ分野に入るのかもコメントをお願いします。
- A. これまで事業本部が自立自走で、各自が最適と思うことに進んできた中で限界を感じつつあり、将来から見てどの辺りのセグメントに注力していくべきか検討した結果、“機能材料”、“金属”、“モビリティ”とした。それぞれの本部同士も新しいシナジー、当社がこれらの事業を行っているからこそ出来るようなことなども含めて、より伸ばせる組織はどのようなものかを社内で検討した結果、このような括りとした。今お示しできることはなかなか難しく、次期中計の発表の際には、目指すところについてはもう少し詳しくお話できると思う。触媒はモビリティ分野にしっかり入っている事業のため、モビリティと一緒にした方がより可能性が膨らむと考え、モビリティに括りなおした。全固体電池については、今後もしばらくは事業創造本部で扱っていくことから、モビリティには入らないとご理解下さい。

以上